

東京女子大学「マイライフ・マイライブラリー」公開実績報告会

■日時 2011年1月17日(月)

■場所 東京女子大学図書館および23201教室

■プログラム

1. 学生アシスタントによる図書館ツアー

14:00~15:00 18:00 【図書館内】

2. 報告会

第1部 15:00~16:50

【23号館2階23201教室】

①学長挨拶(真田雅子東京女子大学長)

②実績報告(兼若逸之東京女子大学図書館長)

③講演(逸村裕筑波大学附属図書館副館長)

「マイライフ・マイライブラリー 高等教育変容への期待」

第2部 17:00~18:00

各学生アシスタントの活動報告

■参加者 210人(うち、大学関係者119人、他大学学生5名、高等学校関係者1名、企業関係者・一般28名、本学学生教職員57人)

■成果

1. 学生アシスタントによる図書館ツアー

図書館ツアーを報告会前後に3回実施しました。参加者は約110名で、学生アシスタントの案内により、7、8名のグループに分かれ、熱心に見学していただきました。このツアーを通じて参加者には、多様なスペースを有し、多くの学生がそれぞれのニーズにあった場所で活発に学習している滞在型図書館の実際に触れていただくことができました。

2. 報告会

[第1部]

①学長挨拶

真田東京女子大学長から本学のGP事業のこれまでの取組状況、本学の教育におけるマイライフ・マイライブラリーの意義、そして自己点検・評価と外部評価を受けたことを踏まえて公開実績報告会を開催し、広く成果を社会に還元したいとの挨拶がありました。

②実績報告

兼若図書館長から、学生支援GP選定当初から今日に至るマイライフ・マイライブラリーの実績について報告がありました。学生の多様なニーズに応える多様なスペースを有することによって居心地の良い図書館となり学生の利用が急増したこと、学生協働サポート体制における各学生アシスタントが積極的に活動を展開してきた結果、他の学生を支援するだけでなく、学生アシスタント自身が経験を通じて自身の大学生活の充実をはかること等ができてきていること、このような取組みの結果、学習滞在型図書館が実現していることについて、学生アンケートや教員アンケ

ートの集計結果などを用いながら説明が行われました。

③講演

「マイライフ・マイライブラリー」の外部評価委員長を務められた逸村裕氏（筑波大学附属図書館長）が「マイライフ・マイライブラリー 高等教育変容への期待」という演題でお話しされました。逸村氏は、まず日本の高等教育の変容の状況について、少子化・ユニバーサル化の問題、学士力における課題解決能力の重視や単位制度の実質化としての事前・事後学習の重視に触れた上で、図書館の果たすべき役割について言及されました。前述の背景に加え、情報技術の進展の影響もあって、いわゆるラーニングコモンズが登場してきたこと、東京女子大学のマイライフ・マイライブラリーは、ラーニングコモンズとは謳っていないが、学生が主体的な学習を行う場と言う意味で、その中に含まれるとし、ラーニングコモンズについて、筑波大学の例をもとに、学生の視点をまじえて説明がなされました。途中、筑波大学情報学群知識情報・図書館学類 4 年の学生 2 名から春日ラーニングコモンズでの活動体験の報告がありました。まとめとして、逸村氏はマイライフ・マイライブラリーの外部評価結果について触れ、「マイライフ・マイライブラリーは成功していると言えます。」とした上で、その成功要因を説明されました。また課題についても触れながら「それを乗り越えていただけることの期待を持っています。」と述べられました。締めくくりに「但し今日の成功は将来の成功を保証しないのが現代のあり方です。」といったその努力を喚起されました。

[第 2 部]

学生協働サポート体制における学生アシスタントが各自の活動について報告を行いました。ボランティア・スタッフ、サポーター、システム・サポーター、学習コンシェルジュの順に、まず代表の学生がそれぞれのアシスタントの業務全体について報告し、その後、参加学生が 1 人ずつ、活動した感想や成果等について発表しました。とくに学習コンシェルジュは、代表学生がパワーポイントの資料を使って、発足当初からの活動の歩みと成果について詳細に報告を行いました。

以下は、学生発表の 1 部です。

(ボランティア・スタッフ)

- (2010 年度から) 活動報告をメーリングリストでメンバー全員が共有できるようにした。どの時間帯に利用者が多いか、ここがもっと便利になったらよいなどの意見交換の場となり、改善点も見えるようになった。
- 「利用促進デー」を卒論執筆期間に実施した。これによって認知度が上がるとともに、ボランティアの士気も向上した。

(サポーター)

- やっていて、良かったことはジャンルをまたいでたくさんの本を知ることができることです。普段は自分のレポートに必要な本しか手に取らないが、活動中には普段の何百倍もの本を見ることができ、仕事に自分の知識欲が刺激され、今一番学習意欲が高まっています。
- この頃は皆で「何かお探しの本はありますか？」等と目を見て聞くようにしています。そう聞くとちゃんと答えてくれる。
- 自分の専門分野以外の本にも触れられることがよかった。配架の前に並び直しをしながら、「こんな本もある」「これも面白そう」という興味を持ったり、配架作業時に普段は行かな

い書架も見ることができ、様々な分野の存在を知り、興味が広がったことがよかった。また、配架の仕組みがわかったことで自分の資料を探すのがスムーズで、速度も速くなった。

- 図書館自体に強く興味を持ち、図書館学を勉強してみたいと思うようになり、昨年、司書講習を受けて司書資格を取りました。このようにサポーター活動は大学生活にとっても、私自身にとっても、強い影響を与えてくれました。
- 返本作業中にこれまでは見たこともなかった難しそうな本や様々なジャンルの本を見て、それらを自分の知識にした人がこの大学にいるということにとっても興味を持ちました。自分の学習に役立つような本も活動を通じて見つけれられたし、レポート執筆時にも関連する本を見つけられたりして、自分の学習にも役立っています。
- 配架作業中に心がけていることは、速さより正確さ。私たちが間違えると利用者である学生が本を探すときに大変な思いをすることになる。このような意味で、本の配架は単純作業のようでいてとても責任があるものですが、図書館の運営に携わっている、役に立っていることが実感できる仕事だと思います。現在就職活動中ですが、この責任のあるサポーターの仕事は、社会に出てからも何らかの形で活かせるのではないかと考えています。
- 同じ学生なので利用者としての視点をもって運営に携わっていきたい。また、こういう学生が直接図書館の運営に関わるような体制がもっと他の大学でも広まればいいと思います。

(システム・サポーター)

- 図書館側も私たちの提案を積極的に取り入れてくれるし、取り入れられない場合でも「なぜできないか」の部分まできっちり説明してくれるので、提案しやすく、そのことが意見交換や活性化につながっていると思います。最近では質問が増え忙しくもなったが、利用して貰えることは嬉しい限りです。
- 設備を整えただけでなく、図書館側が積極的に学生に対して様々なプログラムを発信していることが図書館に人を集めている原因になっていて、それと同時に学生アシスタントの存在も広く認知されてきたと感じています。
- マニュアル制作に携わったことが印象深い。学生アシスタントの発案で始まりましたが、その時、私が個人的にまとめていたメーリングリストの質問・回答リストがベースとして使われました。それが現在、形になり、誰でも見られるようになり、スタッフが入れ替わっても引き継がれるようになったことがとても嬉しく思います。
- 学生のモチベーションを支えているのは図書館員が熱意を持ってプログラムに取り組んでいること、私たち学生の意見を丁寧に聞き入れて反映する姿勢がはっきり示されていることがあります。図書館員の協力・積極的な声掛けがあって自分たちの活動が大きくなったと思っています。
- 利用する側から、提供する側に回ったことで、図書館だけでなく大学の教育・大学の制度への理解や思索が深まり、自分の大学生活を見直すことにつながったと強く感じています。
- 自分は大学のサークル等に全く所属していなかったのですが、大学に対する所属意識が非常に低かったが、図書館の学生アシスタントの業務を通じて、自分と大学とのつながりが深まったと思います。

- 今年度の活動で思ったことは、昨年度に比べて自信を持てたこと、シャットダウンや大量印刷の課題にも先輩方が作成したポップでうまく対応できたことが良かったと思っています。
- 今後も発展させ根付かせるためには、大学側の働きかけだけではだめで、学生の主体的な活動が非常に重要だと思います。来年もシステム・サポーターとして活動するので、この気持ちを忘れないようにしたい。

(学習コンシェルジュ)

- 「学習コンシェルジュとは」、(学部学生が) 学習する際に、先生には聞きにくいことや消化できていないことを整理するための相談相手であり、また、学習コンシェルジュの活動は、図書館と各専攻の先生、コンシェルジュの三者の連携が取れたことで活性化したと思っています。
- 学習コンシェルジュが大学院学生であることが認知されてきたので、大学院についての質問等も増えました。他の質問のついでに聞かれることもあり、大学院の入試や大学院の学生生活、将来設計などについて聞かれたりもします。
- アシスタント・アイランドで隣に座っているシステム・サポーターの活動が 2009 年度後半から飛躍的に増加したので、パソコンに関する質問をすぐに引き継ぐことができるようになりました。
- 相談者から感謝の言葉を貰えることをとても嬉しく思います。とくにレポートについて相談に乗り、相談者が書きあげた報告をしにきてくれたりすると、学習のサポートの一助になっていることを実感できます。
- 2年間の活動を通じて、通常業務においては、相手の学年や学習程度に合わせた取捨選択や言葉の使い方を学びました。ガイダンスを通して多人数の前で整理した話をする訓練になっていると思います。異なる分野のガイダンスと担当した時に、授業担当の先生からプレゼンテーションの方法についてのアドバイスを受けることもでき、ありがたいと思っています。
- 実際に始めてみて、相談してくれる学生のニーズに応えるのは非常に難しいことだと気付きました。他学科からの相談も受けると、今まで触れることのなかった分野のことを聞かれたりして、自分の勉強になり、視野も広がりました。
- 自分の勉強になっただけではなく、利用者の質問に応えることで、学生が学生に図書館利用の知識を教えるという、正に学生協働サポートを实践できて、気持ちよく働くことができました。
- これまでの質問と回答を見て、学習コンシェルジュが如何に工夫して質問をしてきた学生を導こうと努力してきたかを知りました。例えば、レポート作成では質問者が何につまずいているのか見極め、それに気付かせるような質問を投げかけて、質問者が自分で考えていくよう促しています。

第 1 部、第 2 部を通して、マイライフ・マイライブラリーの取組み実績、学生アシスタントの活動実績、それらによって如何に本学図書館が学習滞在型図書館となり得ているかについて、広く他大図書館関係者等に知ってもらう機会とすることができました。参加者アンケートの集計結果から、「参加目的」は、学生協働サポート体制への興味=45.8%、滞在型図書館への興味=35.7%、外部評

価結果を踏まえた講演への興味＝13.0であり、「報告会参加によりその目的が果たせたか」という問いに、強くそう思う＝64.8%、ややそう思う＝32.8%と、高い評価を得ました。「自身あるいは自身の所属機関にとって報告会は参考になったか」という問いについても、報告会全体について、強くそう思う＝63.9%、ややそう思う＝35.3%となり、とくに学生アシスタントの活動報告については、強くそう思う＝72.7%、ややそう思う＝26.6%と非常に高評価となりました。

また、参加した本学学生、とくに学生アシスタントにとっては、他大学（筑波大学）の学生の活動ぶりを知るとともに、あらためてマイライフ・マイライブラリーの取組への理解を深め、自分たちの図書館での活動の励みとすることができたと思われます。

■今後の事業への反映

公開実績報告会の実施を通して、大学図書館における学習支援の重要性と、それを支えるものとして学生アシスタントによる積極的な活動が欠かせないものであることが再認識できました。多くの他大学等からの参加者も同様の認識でいることが参加者アンケートの結果等からもわかり、今後いっそうの充実をはかる必要性を認識しました。

学生協働サポート体制を学生のニーズの変化に合わせて維持発展させていくためには、活動に継続性を持たせる必要があり、アシスタントの採用方法や情報交換・共有の方法等の改善をはかるべく方策を検討中です。